

認知症サポーター

認知症の方と

その家族に寄り添う

誰もがなりうる認知症。町ではその症状に合わせた様々な支援策があります。認知症の方とその家族を地域で支える「認知症サポーター」もその一つ。安心して地域づくりに貢献する、認知症サポーターの活動について紹介します。

サポーターに
なったよ！



認知症サポーター養成講座を受講した佐志学童クラブの皆さん

認知症サポーターは
地域にいる応援者

認知症は誰でもなる可能性がある脳の病気。いつ自分や家族、友人や知り合いが認知症になるか分かりません。認知症は他人事だと無関心でいるのではなく、「自分の問題」として捉えることが大切です。

認知症の方やその家族が地域で明るく暮らしていくためには、その方々を支えていく仕組みづくりが欠かせません。認知症サポーターもその仕組みの一つ。認知症サポーターは、認知症を正しく知り、理解することで認知症の方やその家族に対して、できる範囲で手助けする存在です。

「応援者」として寄り添い見守って話を聴き、オンラインジカフェの企画や参加など、地域の特性や需要に応じた活動をしています。

認知症の方と家族の
暮らしを支える

地域での見守りは、認知症の方の安全を守るだけでなく、その家族が地域で孤立することを防ぎ、心理的負担を軽くすることにもつながっています。また、職場での見守りは、自治体や関係機関との連携、認知症の早期発見、詐欺の防止などにつながっています。認知症サポーターの見守り活動が、暮らしやすい社会に役立っています。

養成講座で
サポーターを育む

町では認知症サポーター養成講座を開催しています。地域住民や金融機関、企業、中高生など、様々な方が受講しています。見守りの目を増やし、より安心して暮らせる地域づくりを目指しています。

薩摩中央高校でも養成講座を受けています

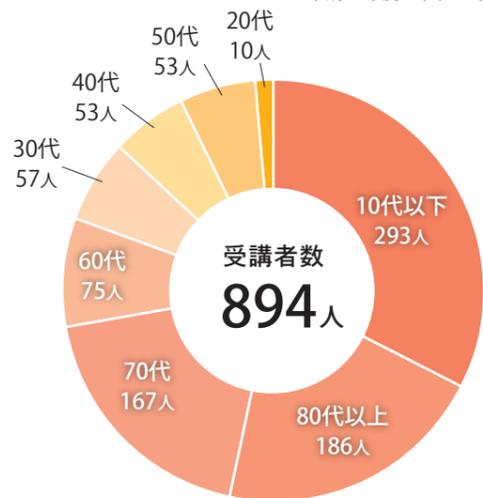


薩摩中央高校 福祉科主任
石田 健優 教諭

薩摩中央高校では、福祉科の1年生が認知症サポーター養成講座を受けています。高齢者が増えていく中で、生徒にとって認知症を知る第一歩になってほしいです。認知症を知ることは、認知症の方を支えるだけでなく、認知症の方を支える人の立場になって考えられることにもつながると思います。相手の立場になって人を思いやる大切さを学ぶことで、道で見かけた困っている人に声を掛けようと思えたり、自身のあり方を考えたりと視野も広がって、人と接して地域と関わることで地域づくりにもつながると思っています。

サポーター養成講座 年代別受講者数

平成29年度～令和3年度



小学生から90歳以上の方まで、幅広い年代の方が受講しています。これまでに、令和4年8月19日時点で延べ2,779人が受講しました。